

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「表現を工夫して、俳句を作ろう」 教材名「日常を十七音で」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ク）

俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。（B(1)オ）

日常の観察から言葉を選び、短い詩形に込める表現を工夫する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。（B(1)オ）	①日常の観察から言葉を選び、短い詩形に込める表現を工夫する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

日常の観察から言葉を選び、短い詩形に込める表現を工夫する。この教材では、日常の観察メモと自作俳句、語を選び直した理由を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。想定する難しさは、音数を合わせるためだけに意味の通らない語を加える。評価では、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えているかを、日常の観察メモと自作俳句、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 身近な観察メモから印象を選び、音数を確認めて俳句に表す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○身近な観察メモから印象を選び、音数を確認めて俳句に表す。語を替えた案を音読して比較し、感想を受けて作者が表現を選び直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(B(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「言葉を減らしても残したいのは、どんな発見ですか」 【めあて】日常の観察から言葉を選び、短い詩形に込める表現を工夫する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 言葉を替えると音数と浮かぶ景色が変わる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「言葉を減らしても残したいのは、どんな発見ですか」身近な観察メモから印象を選び、音数を確かめて俳句に表す。語を替えた案を音読して比較し、感想を受けて作者が表現を選び直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 言葉を替えると音数と浮かぶ景色が変わる。 ・ 説明を減らして見た様子を残したい。	独自の身近な観察メモを用意し、言いたい様子を先に選ばせる。詩の本文は教科書で読み、工夫の名前だけでなく読んだときの感じを話してから自分の言葉を並べる。 想定する難しさ：音数を合わせるためにだけに意味の通らない語を加える。 評価では、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えているかを、日常の観察メモと自作俳句、語を選び直した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 日常の観察メモと自作俳句、語を選び直した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 説明を減らして見た様子を残したい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「言葉を減らしても残したいのは、どんな発見ですか」。中央は、日常の観察メモと自作俳句、語を選び直した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

